

コンベンションシティへと脱皮する街

——港北区・新横浜——

ひかり号大幅増停車が引き金に

ひと昔前なら、「新横浜牧場」。少し前までは、ネオンがまたたくラブホテル街。良好な立地条件にありながら開発の遅れていた新横浜が、21世紀をになうコンベンションシティとして大きな変貌を上げようとしている。

コンベンションシティとは本来、見本市や集會（会議）施設をもち、それを支援する施設としてホテル、レストラン、観光施設等が有機的に立地する都市。そして、そこで人・情報・モノが交流する都市のこと。そうした機能が着々と整いつつある新横浜の姿を、ちよつとのぞいてみよう。

さかんに進んでいる開発のきっかけとなったのは、昭和60年3月の「ひかり号」大幅増停車と市営地下鉄3号線の接続。特に「ひかり号」については、上下あわせて1日6本から51本となり、乗降客が5割以上増加した。また横浜線も増強され、新幹線・横浜線・地下鉄をあわせて1日当たり乗降客は、59年度には約3万3000人だったのが、62年度（4～10月の平均）には約8万4000人とほぼ2・5倍になるという驚異的な伸びをしめしている。さらに今後、東横線方面や川崎方面への新線の建設も検討されている。

道路についても、新横浜元石川線の開通により第3京浜道路港北インターチェンジまで直結した。

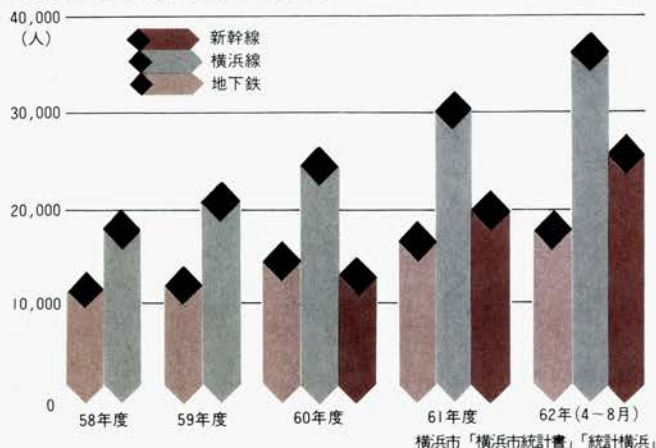
こうした交通便利性の向上により、駅周辺はビルラッシュへ。新横浜では、ビル建設のツチ音があちこちで響いている。

コンベンションシティへ

新横浜地区は横浜市の都市計画でも、関内地区、みなとみらい21地区、横浜駅周辺地区等の都心につぐ「第2の都心」として位置づけられ、さまざまな事業が開発されている。市政100周年をむかえる昭和64年度をめぐりに、着々と工事の進む横浜アリーナ。またメデイカルセンター1地区では、総合リハビリテーションセンターがオープンし、横浜労災病院の工事も進みつつある。

市の事業に触発されるかのように、新横浜には、全国からいろいろな企業が次つぎと進出を始めた。大きく分類すると、ハイテク関連を中心とした成長企業の本社移転、関西・東京資本の神奈川営業所の進出がめだっている。59年には約45棟だった5階以上の建物が、61年には約60棟に。何といっても東京へ19分、大阪へも乗り換えなしという願ってもない交通条件が、全国で事業展開を行う企業の進出をうながしたといつてよいだろう。ひかり号の増停車は、新横浜のビジネス圏を大きく広げたようだ。オフィスの建設だけでなく、ホテルの

■新横浜駅の乗降客数(一日平均)



ビルがふえて、変化していく新横浜駅前

建設もめだっている。地上42階、940室の収容能力をそなえる都市型ホテルの建設が予定されているほか、既存のホテルの増改築もさかんに行われている。ホテルの床面積は、昭和59年と61年を比較すると259%の増。ここでも驚くべき成長率を見ることができ。ようやく、コンベンション機能をもつホテルも整い始めたわけである。さらに、金融機関の進出もめだっている。

これらの動きに一段と拍車をかけるのが、前述の横浜アリーナだ。スポーツ、コンサートなどだけでなく、見本市、各種集会などのさまざまな催しに対応できる多目的スペースは、1万7000人というスケールメットを生かして、かつてなかったようなイベントを生み出すことだろう。

これらの施設・機能が一体となると、多くの人々が横浜を訪れるようになるだろう。人が集まれば情報が交流し、新しいビジネスが生まれる。その状況こそまさに、人・情報・モノが交流するコンベンションシティそのものと言えるのではないだろうか。

アメニティのある街

しかし、現実に新横浜を歩いてみてどうだろうか。確かにビルの工事は進み、駅前には車があふれている。でも、全体にはこりっばく、緑・公園といった「アメニティ」（快適性）がほとんどないようだ。また、商店や飲食店が少な

いことも、それに拍車をかけている。アメニティのないコンベンションシティはありえない。これからの課題は、いかにこれらのアメニティ施設を整えて行くかということにあるのではないだろうか。

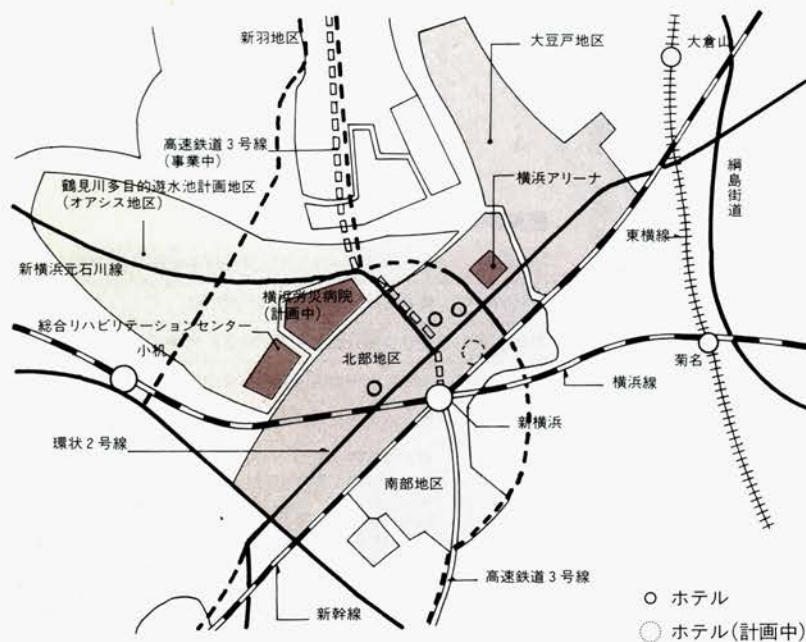
「コンベンションシティ？ 最近、ビルが建ち始めたとは感じていたけど、ほんとうにそうなるのかな。もしそうになったら、今よりずっと便利になるね。歓迎しますよ」

「ここに家をもつて、長年暮らしている私たちにとって一番心配なのは地価の問題。東京の二の舞になるのだけはごめんだわ」

「まちが活性化されるのは、とてもよいことだと思う。新幹線の停車駅でありながら、ここは未開の地だったからね。でも、いったいどういうふうになるのか、今はまだ見当もつかないなあ」

新横浜に住む人た

■新横浜周辺地区



横浜市「郊外のまちづくりへの提案」(昭和60年度)

ちの声である。期待と不安、さまざまな思いで新横浜の変わり様を見ているようだ。

かつて人や情報がいって来た「海の港」に変わり、新横浜は「陸の港」として、人や情報をうけいれることになるだろう。そして、その受け皿ともなる施設がどんどん建設され、ほんとうの意味のコンベンションシティへと、今、新横浜は大きく変わろうとしている。